

繡像  
綺譚

石言遺響

~ 13  
3816  
3



門 13  
號 3816  
卷 3

繡像復讐石言遺響卷之三

東都

飯台 曲亭主人著

門人 魁當癡叟校

賢母墓地ノ火宅と遁る

兄弟十年寒家と成る

第五編



光陰を白駒の隙と見るや、小石媛七歳、香樹九五歳とあり  
ぬひたる。げ小百朋の珠、泥中へ投らして、潔く、今、名とわくし、迹を  
らる。里の総角牛、うら童小、ほくららる。春、澤邊、みぎと摘  
秋、まき、ふ菌を採、鄙よ、それ、何となく、平人の児、なぬ風  
流、あつ、れ、お、わ、り、な、ま、の、月、小、夜、姫、の、生、育、と  
ん、り、ふ、り、今、こ、こ、都、よ、あ、ら、ま、せ、綾、羅、よ、あ、ら、ま、せ、嬬、母、小、傳、き。

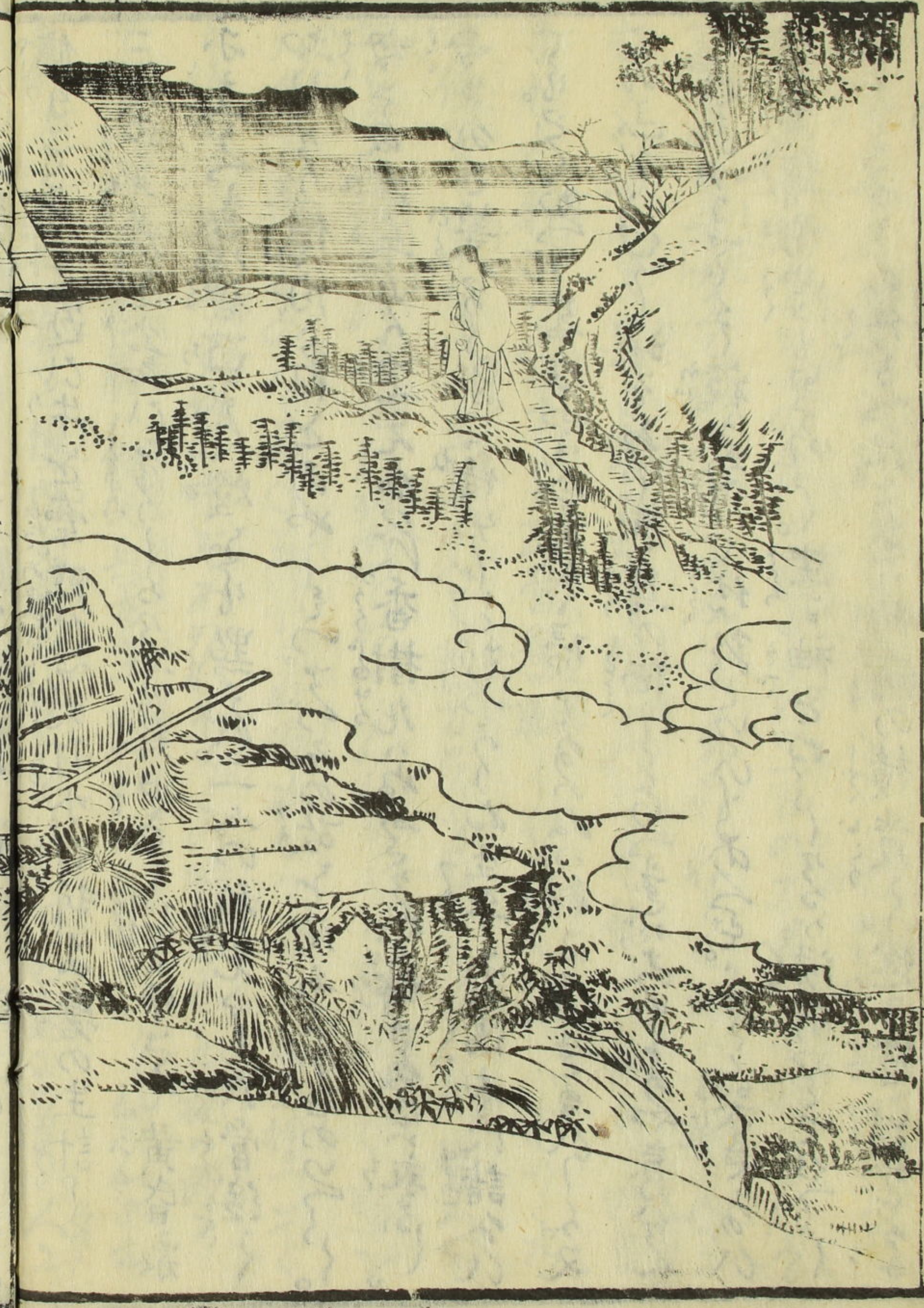
復讐石言遺響卷之三

珍饌美味は飽つことうかた母が縁坐あし。ちと東西もあな見か。  
ゆゑと遠く東路の小夜乃中山あかしく羽生の小屋のよせたる。  
又あれた住居とあひぬ。いとくさくさあふあも袂乃乾くむまあり  
しが。一日月小夜只一人峯の觀音寺に參詣し。堂守の老僧問  
あひくらん。さくも出家の功德は九族天小生どもや。さうぞと  
そのちつことも。法才子もあまひ。血脉授め導師のあつとづれ  
くと宣へ。彼僧のつづく。あましくあれた法あし。遁世のするひら  
あふる頼りくい。元より成道は顔色の美悪もあつとづれ。あつ  
嬋妍なる女房と誰か分りく。教育をき。且佛門に入る徒は  
恩愛戀慕の羈と断。家ともあれ兒と棄く。無為境界に苦む  
くと年と積るはよのそん。さくは大集経あも。妻子珍寶及王  
位臨命終時不隨者唯戒布施不放逸。今世後世為伴侶と説く。  
又常言あも。出家は出家後の出家と堅固よせんと。一旦世後  
うくと薄命と嘆く。出家をくいと。月逝年去まばら世戀  
くと。或は破戒の比丘とあも。或は還俗くと。妻子と推乃よあも。故は  
出家は出家後の出家と堅固よせんと。はつあも。このる今あもか  
まゆよりく。年四十とるそのち。難染の身もなるあも。教諭  
ま月小夜姫る僧のうけり。さくと。いと不與氣よ寺とまも  
あぐく。おみ小あも。ひたあも。いと。道とさく。あも。いと。はら良政卿  
お嫁くも。鐘供養くと。父の菩提と吊りんが為るあも。あも。あも。  
る容易なるべし。あも。く。く。世の乱は遮られ。夙願と果さるあも。  
今かく艱難のうち小日とあも。いと。いと。世は成就せん。いと。あも。あも。

續難言石上清經卷之三

なることごとく。諸國終つて。道俗とて。先終の鐘建立てて  
 かくるべき。けふ一日の念と忘るる。たひ一日の不孝。一年懈るとんる  
 一年れ不孝たる。子共おる。あはざる。あはれ。ね。ね。姉ハ七。才ハ二。つ  
 あ。く。お。く。暑。さ。寒。さを。辨。れ。ば。よ。も。飽。く。ハ。死。外。遮。莫  
 子。か。く。親。お。い。う。が。と。と。只。管。奮。勵。し。つ。つ。く。も。あ。ひ。定。め。く。た  
 の。傍。や。る。草。舎。の中。ま。き。入。己。茶。刀。そ。も。あ。ひ。ど。翠。の。黒。髪。あ。つ  
 坂。を。下。り。ひ。祖。衣。れ。袖。と。引。裂。つ。何。や。ん。と。く。と。書。記。と。く。髪。と  
 引。包。と。ま。る。ぶ。の。ん。ら。び。あ。い。れ。遊。興。あ。つ。べ。し。い。捨。つ。づ。く  
 と。も。あ。く。あ。つ。く。後。の中。ど。あ。り。れ。あ。つ。この時。春。木。ま。花。の。既。し  
 十八。歳。あ。つ。忠。義。ハ。假。父。兵。を。あ。つ。兄。主。計。め。あ。つ。お。く。も。ん。ご。あ  
 う。い。く。し。た。れ。ば。名。と。傳。内。と。更。く。日。久。く。菊。河。の。病。は。り。り。人。よ  
 備。して。馬。を。逐。ひ。牛。と。牽。或。ハ。燒。火。打。水。百。折。を。磨。の。生。計。し。く  
 三人。の。五。君。と。お。い。な。う。し。ど。り。あ。つ。終。日。き。く。川。は。ゆ。こ。そ。黄。昏。家  
 お。ま。り。し。ま。バ。裡。面。は。燈。と。も。點。た。二人。の。稚。兒。と。も。只。管。泣。く  
 お。り。り。傳。内。れ。と。あ。や。し。つ。ぶ。その。故。と。同。ろ。よ。小。石。の。つ。く  
 母。さ。ぬ。亭。午。う。ん。え。え。ぬ。つ。香。樹。丸。の。ぬ。が。え。れ。ど。姉。さ。ぬ。乳。あ。し  
 母。さ。ぬ。と。等。あ。つ。い。の。寝。や。り。し。む。の。う。ぬ。生。平。お。の。法。寺。に。詣。め。い  
 て。も。そ。の。あ。つ。來。あ。つ。今。あ。く。歸。て。あ。ぬ。ハ。射。は。嚙。き。多。い。か。又  
 この。ふ。い。ひ。う。お。そ。あ。し。き。鳥。の。栖。し。の。つ。ま。ば。あ。の。も。の。あ。き。ひ。く  
 と。あ。い。や。う。や。う。ね。お。く。結。致。と。い。ひ。も。あ。い。ど。あ。つ。と。哭。き。あ。い  
 々。ま。バ。傳。内。あ。つ。も。り。り。坐。し。袖。を。ぬ。り。り。湯。打。つ。て。さ。く  
 何。さ。る。も。の。傳。内。た。い。持。病。の。積。費。く。途。は。甜。い。あ。つ。あ。

なることごとく。諸國終つて。道俗とて。先終の鐘建立てて  
 かくるべき。けふ一日の念と忘るる。たひ一日の不孝。一年懈るとんる  
 一年れ不孝たる。子共おる。あはざる。あはれ。ね。ね。姉ハ七。才ハ二。つ  
 あ。く。お。く。暑。さ。寒。さを。辨。れ。ば。よ。も。飽。く。ハ。死。外。遮。莫  
 子。か。く。親。お。い。う。が。と。と。只。管。奮。勵。し。つ。つ。く。も。あ。ひ。定。め。く。た  
 の。傍。や。る。草。舎。の中。ま。き。入。己。茶。刀。そ。も。あ。ひ。ど。翠。の。黒。髪。あ。つ  
 坂。を。下。り。ひ。祖。衣。れ。袖。と。引。裂。つ。何。や。ん。と。く。と。書。記。と。く。髪。と  
 引。包。と。ま。る。ぶ。の。ん。ら。び。あ。い。れ。遊。興。あ。つ。べ。し。い。捨。つ。づ。く  
 と。も。あ。く。あ。つ。く。後。の中。ど。あ。り。れ。あ。つ。この時。春。木。ま。花。の。既。し  
 十八。歳。あ。つ。忠。義。ハ。假。父。兵。を。あ。つ。兄。主。計。め。あ。つ。お。く。も。ん。ご。あ  
 う。い。く。し。た。れ。ば。名。と。傳。内。と。更。く。日。久。く。菊。河。の。病。は。り。り。人。よ  
 備。して。馬。を。逐。ひ。牛。と。牽。或。ハ。燒。火。打。水。百。折。を。磨。の。生。計。し。く  
 三人。の。五。君。と。お。い。な。う。し。ど。り。あ。つ。終。日。き。く。川。は。ゆ。こ。そ。黄。昏。家  
 お。ま。り。し。ま。バ。裡。面。は。燈。と。も。點。た。二人。の。稚。兒。と。も。只。管。泣。く  
 お。り。り。傳。内。れ。と。あ。や。し。つ。ぶ。その。故。と。同。ろ。よ。小。石。の。つ。く  
 母。さ。ぬ。亭。午。う。ん。え。え。ぬ。つ。香。樹。丸。の。ぬ。が。え。れ。ど。姉。さ。ぬ。乳。あ。し  
 母。さ。ぬ。と。等。あ。つ。い。の。寝。や。り。し。む。の。う。ぬ。生。平。お。の。法。寺。に。詣。め。い  
 て。も。そ。の。あ。つ。來。あ。つ。今。あ。く。歸。て。あ。ぬ。ハ。射。は。嚙。き。多。い。か。又  
 この。ふ。い。ひ。う。お。そ。あ。し。き。鳥。の。栖。し。の。つ。ま。ば。あ。の。も。の。あ。き。ひ。く  
 と。あ。い。や。う。や。う。ね。お。く。結。致。と。い。ひ。も。あ。い。ど。あ。つ。と。哭。き。あ。い  
 々。ま。バ。傳。内。あ。つ。も。り。り。坐。し。袖。を。ぬ。り。り。湯。打。つ。て。さ。く  
 何。さ。る。も。の。傳。内。た。い。持。病。の。積。費。く。途。は。甜。い。あ。つ。あ。



こそやぐく逢せぬめいづくか歎にぬいそとさぬぐなごめ賺し  
 津まづ燈と點し夜食あはせ二人の稚児のよと推乃く觀  
 音寺のりふ索ゆく特ハ十月の中れ十日暄又吹きさゆれ  
 峯乃月冷しく雨より滋く降る木の葉は目口りおせり  
 かやと母さぬいぢど母さぬと呼ぶ幼兒のありきさの三峽は悲様  
 鳴く旅客腸を断すゆりえかて傳内人ぞ小同ひ家  
 毎ふぶぬといどもそれとあきこもるあくをしく慮りするが  
 おあ山中なる皆掛村の旁里は一軒のをき家ありれば  
 門の戸うち敲たつてくくやる羊紀二十二年ありてあぐ  
 の衣被る女子れ途は病くありしといふていすありやの  
 かいらとえりすりありあぐせりと叫ぶるは主の男のあ声  
 を聞き寝惚る顔しつ一むの別表は畏れたる抱とわらわし  
 しくあぐれ女子ハ何の故小く像返は髻剪くひ尋身  
 人あぐこれと逃興しるつきと頼りに忙しくあぐきりし  
 夕の過午乃るりやる尋あかこまやといひく哀杖とあ  
 しくまば傳内やぐか安く度さるりむらけくんまば袂衣の  
 片袖又女の髻と裏と一首歌あり月よわづとこれともしよ

あつこのかこもあれ思髻の礼きてうっあひあは福が  
 とまるせの疑あづるもあたその人のあ迹やれが愕然と驚かて  
 しくさくさく月小夜道せしる女あちれ一まぢまのくわみ  
 定めぬあるとさうなるだもあつねむらけあた人の東のる  
 暮ひあたとおぼえすや縦ひ千万の志強ありともつひとゆえ

のつて。心づつうしむゆにまよふとせらる。半のうしむ半の悲  
 し。且く惆悵しそありたるが。あふふあふね。再び兄弟の  
 稚児と付ひく。店の窪ふまらる。うたよ憂ひのなをばせらる  
 業はまよつて。夜となく昼と歎くゆを。げ小母親のまよふ。  
 貧乏の中より見ると云月る。いそぎその辛苦あつと。二十も  
 日くぬ壯伎が。生活のいそぎ。二人の児うちと春云月と。艱難  
 さらふりあがり。小石媛の半はされば。おろく物とらさる。えく  
 ちちあたるも。いそぎ。えりふれを。え彼とあふも。出く。終り  
 母公のゆに中さ。あそられ。帰る。えん時と。いそぎ。不在話下。  
 定め終る。心慰む。いそぎ。いそぎ。ねらひ。不在話下。  
 か。いそぎ。年逝。いそぎ。年。いそぎ。月。日。小園。いそぎ。既。二十年。の。日。生。雲。と。

小石媛十六歳。香樹九十四歳。小ちうり。いそぎ。兄。才。恰。利。わ。り。と。ま。た。父。の  
 流る。母。の。往。方。いそぎ。ふ。か。る。峯。の。雲。乃。は。う。い。も。ま。え。ま。う。い。が。頃。に  
 七月十四日。いそぎ。世。上。の。靈。祭。あ。り。二。親。の。ま。り。と。い。そぎ。生。御。靈。し。と。い  
 祝。ふ。い。か。ま。ま。吾。儕。い。父。上。現。ま。お。つ。せ。と。い。離。禊。の。中。より。別。と。い  
 て。す。つ。又。いそぎ。山。と。出。す。い。信。耗。た。ま。れ。世。の。中。小。あ。り。と。い。つ。を。え。と。い  
 ち。いそぎ。本。の。御。往。方。いそぎ。ま。あ。ら。う。い。い。あ。る。悪。業。あ。つ。と。い。る。と。い。そぎ。を  
 う。いそぎ。同。胞。の。友。喜。み。啼。き。声。と。惜。む。少。選。し。姉。の。い。い。世。は  
 あ。い。い。山。寺。に。盆。の。い。せ。く。布。施。を。ま。い。貯。福。も。あ。い。兄。才。恰。利。い  
 供。の。い。あ。ら。う。い。せ。め。く。茶。萱。菊。と。い。こ。と。い。と。流。寺。小。進。り。  
 浴室の料もいそぎ。ま。い。い。こ。ま。と。促。す。二人。を。と。く。鎌。川。え。け。山。除  
 遠く。い。け。登。る。い。ま。ま。の。葉。が。く。れ。く。蓑。被。し。て。い。蓑。虫。の。一。鎌。菊

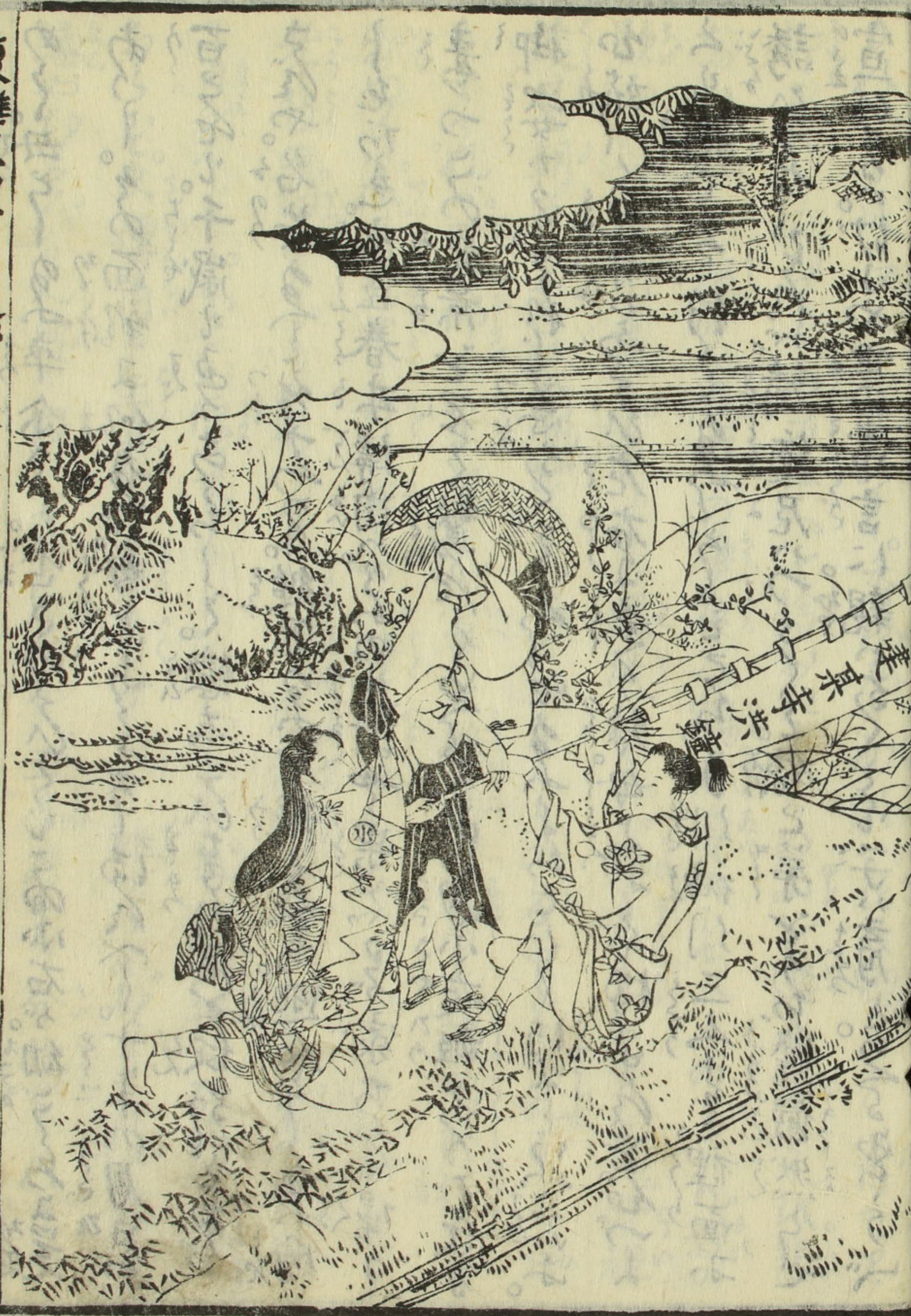
て父戀し二鎌薙て母恋し三鎌薙て三世の祖母頓生菩提と  
 回向しむくの茅萱と薙りわやや家も立くれぬ日既  
 られぬて誠子兒方の孝と感應あり神佛や導たり久し月  
 小夜姫も十年若の山と適き出清道比丘尼と法号し髪は  
 剃り浴せだ五體垢つら面瘦き千苦万辛のひあぐ陸奥のそ  
 ぢくも薙れしおひくの良月経ぬれぬこの時諸國大に乱て  
 しこ施主もなき元々鐘と鑄き黄金の多ありてその調子  
 を定りしよのあねが容易のふあも又中國と勸化もあひく  
 再西ふまゆるふ夕それの月も小夜山中越ふ家路ちかむれ  
 ば鉦鼓の音もちやめくふくふくぬる宿もねるあき簷落て屋  
 峯やぐ茂る柳の花雲と隣の柴垣もむづり裁く庭の松も秋風高  
 くゆるる彼三專の火宅をわく永く九品の淨刹とませんと  
 身も富貴の人をアても夢の中へ快樂と笑ひ容色の堪たる  
 小合ても迷の前此著相と哀れ流石捨り棄るん恩愛の西鞆  
 二人の子共いふふやうり一日又やとまて壁の隙より窺ふ  
 小石香樹の目もゆき茅萱と束ねておせり香樹丸居睡りこ  
 けんとするるまぶくちて女兒の媛はねとる守の脊と下し  
 目もそのの香樹丸何れ昼のつらきあうると父母の泣きあり  
 ちる萱は把ぬもやうもまに甲夜より睡れるころ鈍やと吐く  
 香樹丸は回答もせだ只潜りと泣くは姉も今き痛しく弟は姉  
 としあう姉は守とらうし三人ともをれ同胞のよれあうも  
 ちるやん諫はせむぐあうもやうお擲る過ちるを恨るひそと

復讐言石言請聖書卷之三



詫ふ顔と香樹丸につくくとお膳父上とも母さなとも又と云はる  
 婿君の何れ折檻あさびやと。いふや恨や。おりど涙の眼は漏し  
 へ。ふらふらとあるふゆは。今もが方只管睡と傳せし夢の中  
 以尼法師の本のひく。これと清方の母をせと名告のあ  
 づひのあまきうゆとあする時。婿さぬ小起されく。言しかけど  
 唯見侍るぬ母さぬ適世ありし年。婿さぬ七つおつれれば。そのい貌  
 を認めつた。それ五つの子をまき。面影さして受侍ら。たふひのよ  
 小おしくと。途よだたあひもるると涙顔さうぬ。いふと。あひく  
 世小あくちりあり。闇路よりあく。闇夜はまらふ。夢の裡に。あひく  
 母子の縁の薄く。あまは涙先さうく。さて。そを歎き侍るなれと。涙  
 舟よりあひく。婿の目と声。獲あれたる。戸外へまき。清道尼も。あひ  
 ぬく。あつと。しに。一声さう。哭た。又兄分は。今外面より。女の啼哭さる  
 とあやしく。まき。あひく。兄分は。行脚の尼と。あひく。壁より。あひく  
 兄と。あひく。袖の顔と。押く。只顧歎き。あひく。あひく。あひく。あひく  
 假寝小。あひく。夢も。正夢なる。と。感悟し。兄分は。法衣の袖。小。推して  
 声と。あひく。あひく。あひく。幼稚と。いれ。今。あひく。あひく。あひく。あひく  
 駢と。認。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく  
 母上。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく  
 兄分。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく  
 清道尼。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく  
 方少く。夫も。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく  
 物。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく。あひく

鏡 難 言 記 遺 巻 三



めぐ。母とす。あ。卒。尔。さ。よ。否。さ。の。も。も。あ。小。石。が。幼。う。り。愛  
 あ。り。す。あ。の。面。影。は。似。あ。母。と。あ。う。う。は。な。べ。十。年。の。月。日。  
 百。と。せ。し。千。歳。と。さ。う。あ。ら。へ。戀。あ。ひ。な。れ。ま。を。仮。引。と。あ。り  
 さ。げ。や。名。若。う。と。傳。た。り。繼。子。と。振。り。あ。ち。逃。人。う。あ。時  
 一。も。あ。き。忠。臣。春。木。傳。内。へ。う。の。生。計。や。果。る。は。家。ち。う。く。上。り  
 来。あ。つ。こ。の。光。景。と。そ。う。驚。た。り。と。く。あ。は。月。小。夜。姫。う。り。と。そ。う  
 御。姿。た。ら。う。さ。れ。と。恙。あ。く。と。う。り。せ。あ。の。ま。と。う。り。あ。の。声。み。  
 白。蟻。く。兄。才。あ。ら。び。た。右。ま。き。り。母。と。あ。う。か。け。ま。と。む。つ。よ  
 ん。り。斯。う。と。け。け。の。あ。う。り。こ。こ。ら。は。河。川。袖。川。三。人。一。と。裡。面。不  
 誘。ひ。す。る。も。れ。が。清。道。尼。は。つ。く。と。嫁。と。弟。と。う。ち。膽。儼。然。と。せ  
 宣。ひ。ら。る。げ。小。や。世。の。常。言。に。親。の。あ。く。も。子。の。清。月。と。う。り。あ。う。べ

れ。ぬ。あ。成長。あ。あ。あ。ひ。く。香。栴。丸。が。面。影。ハ。良。政。卿。よ。く。肖。た。て  
 抑。れ。その。む。く。あ。が。二。人。と。捨。た。れ。く。の。山。と。逃。出。出。る。故。悲  
 ち。に。親。も。恨。ん。焼。野。の。雄。夜。乃。鶴。息。愛。の。ち。ハ。その。子。より。親。の  
 歎。う。ハ。百。倍。あ。ま。き。と。ま。う。ぐ。の。縁。故。あ。う。り。鐘。造。立。あ。ま。き。外。祖  
 俊。基。朝。臣。の。菩。提。吊。が。く。し。ち。ま。と。く。の。あ。め。あ。く。成。就。と。う。り。曰  
 も。と。ま。れ。バ。一旦。佛。と。誓。と。う。り。家。を。離。見。と。棄。て。諸。國。修。行。し  
 出。ぬ。ハ。法。為。兄。才。が。母。と。慕。あ。も。母。が。父。母。を。あ。つ。る。も。う。り。あ。あ。い  
 孝。行。の。切。ら。う。と。く。あ。う。り。の。論。一。度。佛。門。は。入。り。ぬ。ま。は。生。きて。夫。兒  
 も。見。え。ど。と。こ。も。と。假。は。せ。う。り。な。る。は。十。年。の。難。行。ハ。あ。ら。し。く。屑  
 あ。ら。む。只。傳。内。が。年。来。の。養。育。さ。に。を。難。う。め。む。り。あ。れ。い。り。なる  
 縁。や。む。む。い。ん。彼。が。假。父。兵。た。あ。つ。小。ハ。三。子。あ。ま。り。介。抱。せ。れ。その







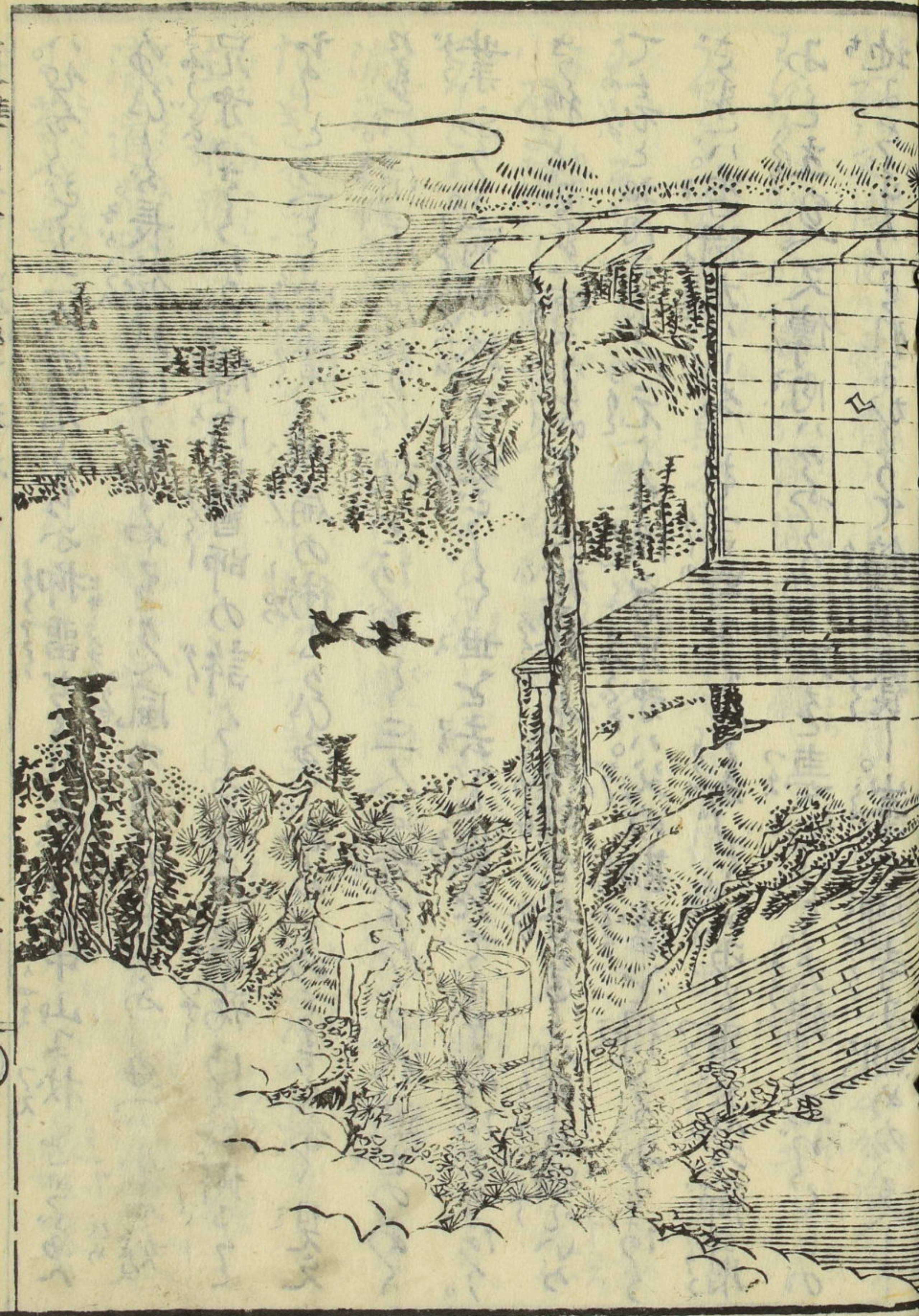
恩と施て仕仕ぬ。一個の侍見と扱れしや。縁故と聞ては彼侍  
 史のりて。決病中あつぐの支と誤語ありて。殿の所信甚  
 しく斯いさうひるふと。万字前とて守と大不被害をそ  
 ふ。伊りて。られく。在あふ。合戦果々のら必一命とさうぞし。  
 只ふ。たは。逃去る。と思量。ある夜館とまのひ。旧  
 都。さう。さう。積悪の。餘殃。あれた。あふ。山崎  
 の。さう。さう。時。山客。む。ぎ。その。衣服。を。剥。る。ある。強姦。と  
 した。浩慮。不。年紀。四十。有。餘。あり。武士。の。浪人。と。お。び。き。過客。由。五  
 歳。を。賭。見。と。推。乃。さ。お。お。途。と。来。め。る。か。群。賊。と。お。ひ  
 ち。万。字。前。と。救。り。万。字。前。は。只。是。窮。鳥。の。懐。は。入。る。と。あ。く  
 ら。過客。の。庇。護。を。う。ら。ひ。こ。ま。り。伴。侶。と。な。り。た。れ。ば。その。旅。宿  
 と。共。し。と。深。草。の。里。よ。さ。う。ぬ。の。過客。万。字。前。の。容。色。よ。あ。ち。ま  
 ど。い。夜。を。い。れ。た。を。め。ま。万。字。前。は。驚。ぬ。船。の。さ。な。く。さ。あ。あ  
 ち。風。情。あり。遠。く。夫婦。の。う。さ。ひ。と。な。り。あ。ち。さ。あ。と。何。人。ぞ。と。  
 後。に。細。く。尋。ぬ。れ。元。は。北。条。高。時。が。二。族。あり。相。摸。守。基。時。入。道。信。忍。が  
 郎。等。は。鶴。見。一。學。と。い。ひ。よ。あ。ち。さ。う。平。家。滅。亡。の。ち。朝。敵。乃。殘  
 黨。や。と。い。ひ。仕。官。を。た。た。え。され。と。兇。勇。の。劉。弼。を。れ。隈。高。業。右。衛。門。と。改  
 め。し。妻子。と。携。乃。諸。國。を。徧。歴。して。或。は。落。武者。の。甲。冑。と。剥。る。或。は  
 旅客。と。切。害。して。その。路。費。と。奪。ひ。さ。う。只。顧。殘。暴。を。披。あ。し。不。義。の  
 財。寶。と。劫。掠。を。妻。に。され。と。憂。ひ。さ。う。杉。ひ。め。さ。う。病。と。な。り。と。三。三。以  
 ち。あ。ち。さ。う。ぬ。あ。ち。さ。う。渠。が。一。子。八。五。郎。の。稟。性。老。實。あり。父。子。似。を  
 孝。心。ふ。り。た。の。な。れ。母。が。夫。と。諫。ふ。あ。ち。さ。う。と。あ。ち。さ。う。と。悲

と共しと。深草の里よさうぬ。の過客万字前の容色よあちま  
 どい夜をいれ。たを。め。ま。万。字。前。は。驚。ぬ。船。の。さ。な。く。さ。あ。あ  
 ち。風。情。あり。遠。く。夫婦。の。う。さ。ひ。と。な。り。あ。ち。さ。あ。と。何。人。ぞ。と。  
 後。に。細。く。尋。ぬ。れ。元。は。北。条。高。時。が。二。族。あり。相。摸。守。基。時。入。道。信。忍。が  
 郎。等。は。鶴。見。一。學。と。い。ひ。よ。あ。ち。さ。う。平。家。滅。亡。の。ち。朝。敵。乃。殘  
 黨。や。と。い。ひ。仕。官。を。た。た。え。され。と。兇。勇。の。劉。弼。を。れ。隈。高。業。右。衛。門。と。改  
 め。し。妻子。と。携。乃。諸。國。を。徧。歴。して。或。は。落。武者。の。甲。冑。と。剥。る。或。は  
 旅客。と。切。害。して。その。路。費。と。奪。ひ。さ。う。只。顧。殘。暴。を。披。あ。し。不。義。の  
 財。寶。と。劫。掠。を。妻。に。され。と。憂。ひ。さ。う。杉。ひ。め。さ。う。病。と。な。り。と。三。三。以  
 ち。あ。ち。さ。う。ぬ。あ。ち。さ。う。渠。が。一。子。八。五。郎。の。稟。性。老。實。あり。父。子。似。を  
 孝。心。ふ。り。た。の。な。れ。母。が。夫。と。諫。ふ。あ。ち。さ。う。と。あ。ち。さ。う。と。悲

一日夜哭あゝ哭々を袖小縁に眼病を引出し、兩眼をうや  
 警らう。業右衛門のあはれなれよとあやとあまの妻のやくせと去  
 った。さう思ひ盲とちうぬまき。諫まものあはれをうやむ。心のやう  
 小舉止らう。嗚呼万字前そのあはれと踐のあはれかゝる劇賊の  
 妻とちうぬまきて悪報いもど竭きあはれかゝる業右衛門万  
 字前と伴ひて。関東よあはれひんが。遠州小夜の中山の要害地  
 ちうぬまき。この山よ足ととぬ免西坂巔の幽谷中は蟄居て昼あはれ  
 身と匿し。夜ハ街道小ゆゑ行客と斬害し。その路費と奪ひ  
 とらう。死骸と溪底よ衝落を万字前あはれと。百彼よあはれと馬  
 とぬぬ。暴悪とつらかゝるあはれ世と羞身とらう。ぶらう縊れて死  
 べたよ。さうあはれと。却てこれとらう。名を斬金と更らう。さう  
 世よ。時小あはれと。むらぬの年くあり。生平よ夫と陣。賊物  
 さうなれば夜も面にあはれ罵らう。あはれめ。業右衛門の天晴る片  
 腕とあはれつた女ありとらう。あはれと。寵愛する後子。いづら  
 りあはれとて女子出生し。これを枝折と名づく。斬金とらう。ハ假子  
 ハ五郎を勸らう。そのあはれ四十小ちうぬまき。はあめと見とほけこれ  
 忽ち實子の愛よ溺し。ハ五郎と憎て。あはれと。目さう。アえらう。考と  
 むらぬよ打つた。夫の家小あはれ。さう日ハあまよ三度の食度とあはれ  
 へど。只理と非はね。責つらう。あはれと。ハ八郎の元。考んあはれ  
 へのあはれ。聊もあはれと。父あはれこれと告る。さうなま。業右衛門  
 さう。小あはれと。さうと。中と。斬金。色よ。あはれと。あはれと。あはれと。ハ五  
 郎を。さうと。女児枝折の。あはれと。愛らう。話。あはれと。分る。ハ。清道尼

世よ。時小あはれと。むらぬの年くあり。生平よ夫と陣。賊物  
 さうなれば夜も面にあはれ罵らう。あはれめ。業右衛門の天晴る片  
 腕とあはれつた女ありとらう。あはれと。寵愛する後子。いづら  
 りあはれとて女子出生し。これを枝折と名づく。斬金とらう。ハ假子  
 ハ五郎を勸らう。そのあはれ四十小ちうぬまき。はあめと見とほけこれ  
 忽ち實子の愛よ溺し。ハ五郎と憎て。あはれと。目さう。アえらう。考と  
 むらぬよ打つた。夫の家小あはれ。さう日ハあまよ三度の食度とあはれ  
 へど。只理と非はね。責つらう。あはれと。ハ八郎の元。考んあはれ  
 へのあはれ。聊もあはれと。父あはれこれと告る。さうなま。業右衛門  
 さう。小あはれと。さうと。中と。斬金。色よ。あはれと。あはれと。あはれと。ハ五  
 郎を。さうと。女児枝折の。あはれと。愛らう。話。あはれと。分る。ハ。清道尼





二人の兒こうち小抑雷おとこづかみとされちがごとく中山なかつまの杖つえととてふれん  
 のひらぶ長旅ながたびはけれもる久風ひさかぜのちちと打あきぬ小石おおいし媛ひめ  
 兄あに才さいのさうなり。傳内でんないの醫師いしやの許ゆるぎうきをぬれた看病かんびやうはくは解とくるそと  
 ちりとりども定業ぢやうごうの岐扁きへんの術じゆつもひまき。今いまこのそとくかく見え  
 るも清道せいどう尼に持もた枕まくらとのぎとく三人さんにんは告つげまむ。これ過世すくせのあく  
 業ごうふく。宿願しゆくがん終つひと遂すいごうと世よと去さと。歎なげたててもをゆるめたり。はく  
 さづねども實小まじこ死しせりと被露ひろうしと縁故えんこを告つげまむ。良政らうせい卿きやうといの  
 てと衣あひらと持もたさくらん。元もとより流ながる兄才あにさいの父ちちの勘當かんたうと得えるもいひ  
 さまじい香樹かうじゆ丸まるは日ひあぶむ吉野きちのまをを系けいぐと。父ちちあし事こと君きみの御用ごいよう  
 あと立たち。又傳内でんないはくあり。小石おおいしを妻つまととて夫婦ふうふは志こころづきこの  
 地ちよととまふ。これまかると鐘供養かねくわう。峯みねの御寺ごてう小納こなめめあへ

小石おおいしハ又傳内でんないの齋さい眉まゆ。十年じゆんねん養育やういくの恩おんを報むかへたゆ勿論むろんあり。  
 されど、いよかゝるに符代ふしろ兒こは藏くらる金像きんざうの觀世くわんぜ音おん昔むかし御首ごくび  
 らせり。五體ごたい不具ふぐ小石おおいしはゆませば。後世ごせの罪つみあるはあひや  
 ぶとてそそけそわ。一旦いつたんも命いのち小石おおいしを尊像そんざうなれば。さし  
 小石おおいしは讓わがべし。御首ごくびうらむ。鐘かね鑄ちゆう成就じゆうじゆするの日ひも。これ實小まじこ成仏じやうぶつ  
 せりとあつとあつと宣のたまふ声こゑいと苦くるけい小石おおいしえあつ。同胞どうぱうは只胸ただむねせり  
 涙溢なみだあふれあつと回わい答たふふふ。傳内でんないも只管ひたすら養やうふ汗あせ。臉おもてと志こころを  
 たききとつと仰おほせさ。そとあひゆまきどいづと不肖ふせうの身みとて  
 主ぬしの姫君ひめきみと娶めとむ。このめいけいなり。びつと固辭こごしなれば。し  
 清道せいどう尼に聽きく。君臣きんしん夫婦ふうふの義ぎのよろきあやむ。義ぎは仗たすて恩おん  
 は答こたへる母ははが寸志すんしとひりうする。不孝ふかうなり。不忠ふちゆうあり。吸いの

かろんらち。どく婚姻なりしと。あいに促し多ひに傳内辞する言  
 なく。その夜さう。清道尼の枕邊あり。小石媛と酒盃さうり。藩揚  
 の睦まじく。母乃尼公いり。げふ奇膽てあつて。後三日さう経て。  
 遂まむあかりなり。時小三十三歳なり。死する人の心乃中も残る  
 ことの悲しむ。おひく。て。千方無量の哀傷憂苦。踰つづる。あさ  
 づか。葬式さう終ひ。七日の追福。そのあつて。月日さう。  
 此の喪既。終り。れば。香樹丸。母公の遺令に。さう。あつて。吉形。小  
 おひびん。さう。あつ。時。偕内。小石。小告。て。い。つ。く。香樹丸。い。さ。う。十五歳  
 あり。満。さ。う。る。さ。遠。く。さ。ち。や。り。さ。う。の。い。は。れ。お。は。ら。な。り。と。り。  
 ごと。尼公の遺令。重。り。れば。大和。さ。う。い。は。流。供。い。づ。あ。つ。と。さ。う。あ。つ。  
 三河尾張の辺。ゆ。も。香樹君。と。送。り。さ。う。直。小。彼。國。と。勸。化。さ。う。巨  
 鐘。造。立。の。よ。と。さ。う。れ。べ。い。こ。さ。一。支。兩。用。さ。う。の。れ。計。な。り。さ。う。さ。う。さ。う。  
 且。れ。も。未。春。二。月。の。末。な。り。さ。う。あ。つ。さ。う。親。よ。も。れ。か。と。さ。う。ら。や。り。  
 ゆ。り。夫。の。為。也。さ。う。あ。つ。さ。う。の。使。り。あ。つ。さ。う。あ。つ。さ。う。何。も。も。親。の。お。な。り。と  
 諦。ま。り。と。小。石。媛。の。夫。の。志。念。あ。つ。さ。う。れ。も。又。胸。が。さ。う。あ。つ。  
 涙。ア。セ。と。さ。う。ぬ。顔。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。念。と。さ。う。あ。つ。  
 む。れ。も。一。年。二。三。年。難。の。日。と。あ。つ。さ。う。母。上。十。年。の。苦。行。小。な。り。  
 さ。う。さ。う。起。り。あ。つ。さ。う。あ。つ。さ。う。の。れ。バ。偕。内。や。と。安。く。い。  
 香樹丸。さ。う。一。鉢。の。禪。衣。と。被。り。西。國。願。礼。の。行。者。小。打。扮。主。役  
 兼。ふ。西。と。臨。り。起。り。さ。う。風。さ。う。喰。ひ。露。さ。う。寢。日。と。経。り。三。河。尾。張。の。塚。さ  
 茅。門。の。郷。小。さ。う。さ。う。香樹丸。杖。と。さ。う。め。り。さ。う。法。身。さ。う。あ。つ。  
 忙。し。く。路。と。さ。う。さ。う。此。の。法。施。と。さ。う。甚。さ。う。さ。う。あ。つ。

夏雄言石言遺集卷之三



募建某寺 洪鐘

治門地化女僧請

東三河國草川  
西尾張國呼續濱

うりひらねく吉野のまゝの只言を公とほりひまひ日かゝるを婦と  
 も迎へて法外と助く鐘供養のみともさるべし。り又又上許容  
 へりまゝだつた破るく彼山の土とあん。ちれは互のよふに  
 一奉ふあぶしとさひ定めくええあつた傳用漢書しつゝく實也  
 旗檀る二葉より香しく。潜龍魚鱗と伴ととれは終る池中の  
 このふあぶ鄙よの生育あひぬきと。流石良政卿の公達めくゆ  
 くひらねく大巧の細謹と省むとつゝさびやく白愛して淑母尼公は  
 志と継せあふくを大なる存々るけきとアッれは香樹丸もゆりく  
 感謝しあひまは徒越越とく。あふ東西は別去りま  
 二十ヤ

繡像復雙石言遺集卷之三畢

